

令和元年度第3回(第65回)CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和元年12月20日(金) 10:00～12:00

場 所：乃木坂ビル 4F会議室

出席者(順不同・敬称略)：

高木真人委員長、湯本公庸委員、杉浦信男委員、植山淑治委員、八坂保弘委員、
岩田敏委員、河津宏志委員、高田英治委員、印南幸夫委員、石川善信委員、尾崎章幹事
オブザーバ：広崎膨太郎前会長

配布資料

- 資料3-1 令和元年度第2回(第64回)CPDプログラム委員会議事録(案)
- 資料3-2 第25回(2019年度第4回)CPD運営委員会議事メモ
- 資料3-3 CPDプログラム委員会R02年度事業計画、R01年度事業報告(中間報告)(案)
- 資料3-4 WFEO(世界工学団体連盟)総会、WEC2019(世界工学会議)参加報告
- 資料3-5 松尾政策統括官ご講演資料
- 追加資料 各団体におけるCPD活動及び登録に関するアンケート票

議事

1. 前回議事録の確認

- 資料3-1により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

2. CPD協議会運営委員会(10/29)報告

- 資料3-2により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
- 世界エンジニアリングデイ記念シンポジウムについて、高木委員長より、以下の補足説明が行われた。
 - 世界エンジニアリングデイを提唱している世界工学団体連盟(WFEO)のナショナルメンバーは学術会議であり、日本工学会はアソシエイトメンバーであるが、日本工学会が趣旨に賛同し、加えて学術会議は政府機関であり事業を行うことが難しいので、日本工学会の主催で記念シンポジウムを開催することとした。
 - 3部構成で、各部とも特に結論は出さないダイアログとする。第三部のモデレータは須藤会長にお願いし、佐藤/東大教授には全体の司会をお願いする予定。
 - ユネスコ、WFEOに対してビデオメッセージもお願いしている。

3. CPD協議会2020年度事業計画、2019年度事業報告(中間報告)(案)について

- 資料3-3により、現状案の説明を行った。CPDプログラム委員会の活動については、基本的には前年度と同様である。ご意見・コメント等あれば別途ご連絡頂くこととした。
- 本件に関連して、以下の質疑応答・コメントがあった。

- 国や産業界のニーズを含めて、CPD協議会の広報宣伝活動を活性化する必要があるのではないか。協議会を脱退した学協会への復帰の働きかけも必要ではないか。
- 日本工学会の認知度を上げるために、シンポジウムを開催し、企業や官の幹部に登壇頂くなどの努力を行っている。CPDの位置づけについては、ポイントだけでない掘り下げが必要。
- 日本工学会ではポイントの認定は行っていないので、CPD全体の推奨活動をした方が、会員学協会にもメリットがあるのではないか。
- 日本は終身雇用が主体で教育も企業内で実施しており個人の自立性が低かった。今後は終身雇用も少なくなる方向であり、個人の自立性が必要となる。
- 現行のCPDガイドラインは2年近い検討を経て制定された。今までの議論も含めて、見直し改訂を今期中に開始できればと考えている。まずは論点整理から始めたい。

4. WFEO（世界工学団体連盟）総会、WEC2019（世界工学会議）参加報告

- 資料3-4により、高木委員長から報告が行われた。
 - 政府や学協会の幹部に女性が多く、エンジニアリングの分野でも女性の活躍が目立っていた。
 - 豪州では英国のチャータードエンジニア資格が中心で、エンジニアの地位が高いとの印象。資格を有していると転職でも有利な模様。
 - エンジニアの自覚が強いので、CPDの意識も高いと感じられた。
- WEC2019には日本技術士会・青年技術士交流委員会のメンバーも参加されたとのことで、豪州エンジニアとの交流について、次回以降ご紹介いただけることとなった。

5. 日本工学会会長懇談会報告（松尾政策統括官ご講演資料）

- 今回の会長懇談会は非公開で行われ、約30学会から40名弱の参加があったとのこと。
- 会長懇談会で行われた松尾／内閣府・政策統括官のご講演について、資料3-5により、高木委員長から報告が行われた。

6. その他

(1) CPD活動及び登録に関するアンケート調査について

- 日本技術士会／河津委員より追加資料に基づき以下の説明、依頼があった。
 - 技術士の継続研鑽・更新制度の検討を進めており、来年10月を目途に提言をまとめる予定。
 - 5年間で100ポイント以上の自己研鑽と更新講習受講を求める予定であるが、各学協会が実施しているCPD登録実績の活用が可能かも検討したい。
 - ついては、各学協会の状況について、資料の様式で回答をお願いしたい。期限は来年1月末頃を希望。
- 各学協会が実施しているCPD活動に関心が高まり、受講者が増えるなら歓迎であるなど、

前向きコメントがあった。

- 協議会会員以外の日本工学会会員団体への協力依頼の可能性も含め、1月7日のCPD協議会運営委員会で検討を行う。

(2) その他

- 広崎前会長から以下のコメント・要望を頂いた。
 - 1999年のEUのボローニア宣言後、資格や教育の相互互換の問題が重要になり、日本でも対応の必要性が認識され、技術士の継続研鑽の奨励などにつながった。
 - 日本工学会の中では、産業分野により、登録ポイント重視や専門性の高度化重視など、対応に温度差がある。日本の技術力再構築のために理念を合わせることを、具体的には、ECEプログラムとポイント制度の有機的つながりを検討して頂きたい。産業界と学会をつなぐ効果も期待できる。
 - 世界エンジニアリングデイ記念シンポジウムは良いことであるが、これに限らず、日本工学会と日本工学アカデミーはもっと連携すべきである。日本の工学全体のために何をすべきか、もっと議論して頂きたい。
 - 独のIndustry4.0では、アカテックが大きな役割を果たした。分野を超えた横連携が強化された。日本のSociety5.0も縦割りの行政だけでは予算を含めて限界がある、横連携のあり方を検討頂きたい。
- 次回については、別途日程調整を行う。

以上